☎0191-23-2456

日日草

30年前の1994年6月16日付本紙に、県南地方での飲酒運転ひき逃げ死亡事故の記事が掲載されている。夜間に道路を歩いていた男女2人が乗用車にはねられ、このうち23歳の女性は頭を強く打ち搬送先の病院で翌朝死亡した▼逮捕された男が公務員だったこともあり、事故は各紙で大きく報じられた。被害女性は首都圏からUターンし、地元企業に勤めていた。新しい職場に慣れ、交遊範囲も広がり、人生の中で最も充実した時期だったのではないか▼その女性は、筆者の実妹だ。事故から8年後、偶然の巡り合わせで記者職に就き、県警や犯罪・事故被害者遺族らによる「いのちの尊さ、大切さ教室」のニュースに触れるたび、いつか自分の体験を書かなければと考えていた▼当時の記憶は断片化している。頭に包帯を巻いたまま死化粧を施された遺体、PTSD（心的外傷後ストレス障害）に苦しむ母の姿、そして沈痛な面持ちで弔問に訪れた加害者の親族。妹の部屋には「父の日」用に包装したネクタイがあった▼裁判では懲役刑が下されたが、父母は深い悲しみを生涯抱えたまま他界し、残る兄弟の無念が晴れることもない。飲酒運転は絶対に駄目だ。わが家の話が誰かの出来心を抑え、つらい思いをする方が一人でも減るよう願っている。

2024/6/16

mer Festa
15(土)・16(日)・17(月)
P